

刊夕日二十月四

# 常磐每日新聞

定価 一部金五銭 二部金十銭 五部金二十五銭  
 廣告料 五部以上 二部以上 一行金五銭 五部以上 一行金十銭  
 日曜 祭日の日 休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

## 人生のゆとり

眞繼雲山

南書にも、油繪にもそれの特長はあるが江戸時代の遺物ともいふべき浮世繪のもつ特異な情調にその名の示す通り、浮世に即した描寫でありながら浮世を一步轉脱したところにその独自の天地を見出すことが出来る、社會に即して社會そのものを如實に生々しく寫すといふことも或る種の繪畫の使命ではあらうが、私たちはもうさうした如實相の執着の世界には飽き疲れてゐるのである。

執着の半面が離着であり無着であるとするれば濃瓢、艶逸な浮世繪のなかには戀もあり慾もありながら何處か浮世を一步だけ抜け出でてゐる趣きのあることはたしかに浮世繪のもつ人生の一つの味ひである。

殊に最も世に知らるゝあの廣重の畫いた東海道五十三次の宿場の光景などは浮世相そのまゝでありながら何處か浮世を茶にした一分の間隙を窺ふことが出来るこれは徳川時代の人の心にそれだけの餘裕があつたであらう、そのゆとりが當時

の産物たる浮世繪に残つてゐるものと思はれない生活難は必ずしも大正昭和の特産物といふではなく實はといへば神武建國以來の道伴れであつたらしく日本歴史の半面を見ると遊牧の民はなくとも一團の人々

ないから、乞食にも旅人にも乞ふものあらば一椀を捧ぐるに何の屈托はない、品物の價值論經濟論ではなく四邊の悠々たる環境がさうした心もちに人々をあらせるのである。

## ノート

ペンで手紙を認める時のインクは青黒色か群青色がよい色の褪め易いものや紫赤などは避けるがよい

が相携へて流れのやうに遠國へへと移住してゐるのは、地方的な飢饉といふやうな誘因もあつたらうがつまり貧苦に追はれて新しく生きる天地を見つけて歩いたのである。

そんなにして生活難に追はれながらも當時の人心には尙ほ一分のゆとりがあつた、これは往昔の日本にさうあつたばかりでなく現代における原始國たる蒙古の奥でも私はしばしばさうした社會相をかつて目撃して來た。

蒙古人の常食は煎米といひ粟に似た粗穀で價に積つて一升數錢、富豪も乞食もそれ以外の常食とては無いのだし施して別段に惜しい程の貴重な美味の品物でも

御入學、御進級、御卒業ハ

プレゼントニハ是非御時計ヲ

御用命ハ……驛前通りノ

星野時計店へ願マヌ

記念トシテ來ル廿六日迄粗景品付  
 正札ノ一割引特賣御修繕ハ大勉強  
 致シマス

## 新形提灯賣出し

櫻の節も愈々近づきました

店頭……店内……の裝飾に

- 最新形の提灯を御利用下さい
- 電燈笠用櫻花コード付 提灯 一ヶ 三十五錢
  - 櫻模 様付 角形 提灯 〃 三十八錢
  - 櫻模 様 ハード形 提灯 〃 三十錢
  - 櫻模 様 中 柳 提灯 〃 二十五錢

スガノヤ提灯店

電話九五番

## 内外全科

醫學博士 渡部義夫  
 女 醫 渡部さい子  
 平町田町大通リ(電話二七七番)  
 入院應需 渡部外科

## 平館

入場券 割引販売  
 一名ニ付 五錢安  
 平町 土橋 マルマン商店  
 電話四八九番

## 御茶屋の折詰

特賣品を(一名)折詰で

御一人前 五十五錢

- 立献詰折朝
- 魚 すし 七品
  - 銘酒 二合ビン 五品
  - サカヅキ 一本
  - 花カンザシ お土産品 一本
- ◇百個以上は特に御相談に應じます
- 外に 魚折詰 二十錢ヨリ  
 すし折詰 二十錢ヨリ

## せ魚清自慢の せ魚清自慢の せ魚清自慢の

平二(電六三三番)

例年の通り魚清自慢の特製みづ豆 八錢 始めました

春のトレンヂコート	7.50ヨリ
春のバアバリー	3.00ヨリ
春の正札堂特製トンビ	8.50ヨリ 18.00マツ
春の紺セルネツミセル外套	4.50ヨリ
春の三ツ組セビロ	7.50ヨリ

平四丁目停車場通り  
**正札堂**  
 電四三六番

## 市原醫院

平町田町(電話二一四番)  
 内科小兒科 市原卯太郎  
 外科一般、婦人科 市原陸郎  
 外科梅毒、淋病 市原三三男  
 入院隨時

# 櫻景氣の最高調 縣社の祭禮

## 紺屋町青年が御輿奉仕 境内には餘興賑々しく

## 全町晴れ的美装

平町縣社子鏡倉神社の例祭は来る十七・八の兩日執行される先づ十七日には午前十時縣の供進使が参向し全町

廻し一方境内には兩日を通じて林正夫、櫻麗子一行の舞踊樂劇團の餘興を始めとしレコードコンサート等の催し等賑々しく演ぜられ折柄咲き誇る松ヶ岡公園の櫻花

役員参列 の上に祭儀を執行し翌十八日は紺屋町青年八十名揃ひの浴衣に意氣込みを示して奉仕する神輿が色とりどりの團旗を捧持した全町青年分團や可憐な稚兒の供奉に依つて

相呼應し 祭り氣分を全町に横溢せしむべく此の間絶え間なく冲天に轟く花火は一層此の活況を引き立て、櫻景氣の最高調を呈するものと期待さる

午前九時 社前を出發 祭り裝飾美しい全町を練り

## 第四校建設

### 愈よ土地買収

#### 坪三四圓の程度か

既報平町の第四小學校新築案は其後委員を擧げて種々調査中であつたが来る十四日午後一時より役場會議室に土地買収に關する委員會を開き具體案の第一歩を踏み事となつたが敷地として平署裏新川を越えて小太郎、堂根、三崎の地内水田約一萬五千餘を坪當り三圓

## 警中級長

### 本日各組決定

警城中學校にては本日各組年度に於ける各學年の正副級長を左の如く決定した

## 麥作は順調

### たた冷氣が續き

### 萎縮病を惶れる

石城郡下の大小麥作は目下成育期に入つて最も肝腎な際なので郡農會では各地の成育成績を調査中であるが大體順調な成育振りを認めて居るた冷氣が例年より低く冷氣が割合に續いて居る結果萎縮病の發生を慮れ種々對策を研究中であると

## 女兒教育の眞髓

### 平第二校職員會議決定

平第二小學校にては昨日職員會を開き女兒教育の根柢に就いて種々協議したが結局津田校長の指示事項たる左の要項に基いて教育に力

- 北野正明 草苅建 三ノ
- 一鈴木隆之 太田正 三
- 三ノ二利根川正徳 水野
- 亨 三ノ三申澤登 遠藤
- 祐藏 三ノ四堀深 佐藤
- 政雄 三ノ五佐藤忠一
- 田中英男 四ノ一山崎研
- 治 山形透 四ノ二渡邊
- 仁作 佐藤重盈 四ノ三
- 根本善一郎 川角三郎
- 四ノ四加古信次郎 高階
- 次郎 四ノ五渡邊四良
- 増尾克善 五ノ一關内三
- 郎 桐谷義男 五ノ二新
- 妻衛 志賀守 五ノ三鈴
- 木繁好 田中謙二 五ノ
- 四澤聰 中津秀幸 五ノ
- 五高秋實 高田孝

## 花見の賣店

### 平商生の實習

平商業學校長矢野泰次郎氏は今學年より五年生に對し實習指導を行ふべく種々計畫中の處差當り花見の季節を利用して適當の場所を選んで出張賣店を開くとの事である

- 一、國體觀念の涵養に務め一層國民精神の作興に務むる事
- 一、信念的態度を涵養し宗教的情操の素地を作る事
- 一、體育衛生に留意し身體の健康増進を圖る事

## 自動車協會 支部總會

### 新幹部決定

石城自動車協會支部總會は昨十一日午後一時より平署會議室に開會、八年度豫算として二千三百九十三圓四十三錢を可決し尙縣大會への建議案を協議した後幹部役員の改選を行つた結果左の如く決定した

- (支部長)小田部平署長
- (副支部長)小濱長太郎
- 野崎滿藏(幹事)山崎才次郎(常議員)鈴木稻美 松崎安 馬目喜右工門 芹澤清忠 平野直藏 瀧口平治 鈴木房次郎 吉田直之助
- 夏井養蠶協議 石城郡夏井養蠶實行組合では

廿日午後一時より同村小學校に役員會を招集幹部役員の改選を行ふと

- 平町人事
- 回出生
- △仲間町六九 矢野三子氏 三女ミヨ
- △紺屋町二五 根本寅吉氏 三女雅子
- 回婚
- △郡山市反町六十 鈴木七郎氏(二六)四軒町一六渥美花子(一九)
- △紺屋町二五 根本寅吉氏(四四)千葉市土井町二七三〇田中はな(二四)
- △石城郡神谷村字風内一三〇佐藤勝久氏(二三)古鍛冶町七久保木チヨ(二二)
- 回死
- △鍛冶町一〇 吉田ユキ(二六)

謹啓母ハル儀永々病氣中の處療養相不叶本日午後四時死去仕り候間此段御通知申上げ候

追て葬送の儀は来る四月十四日午後二時自宅出棺天理教會墓地に納骨仕可候

昭和八年四月十日

平町字田町十四番地

**小齊 五郎**

愈々お待ち兼ねの新車!!!

三三 年型 **スペツシャル・セダン**

が到着致しました何卒舊に倍し御愛顧の程御願ひ致します

**高級貸切**

**不二タクシー**

電 3 2

【助手入用】

# 全町に魁けして

## 鎌田町が豫選會

### 投票の形式で候補者物色

#### 昨夜の結果

平町の町會議員選舉は櫻花の散るを待つて一大白兵戦を展開するもの、如く目下嵐の前の

#### 静けさを呈し各區夫々人選其他潜航式の準備を進めて居る模様であるが鈴木光吉、佐藤岩次郎の兩町議を擁する鎌田町では全町に魁けして早くも昨夜區内の候補者豫選會を金成區長

猪狩觀徳の兩氏にて直ちに委員數名が立候補の交渉を兩氏に向つて開始する事となつた因に猪狩氏は平驛改札主任の現職に在り區内に於いては鈴木町議と共に信用頗る篤い人である

# 花誘ふ

## 人出を期待し各商店が準備

### 連日の諸大會

平町松ヶ岡公園の櫻花は此處數日に迫つたが開花期目かけて十五日の町村長支會總會を始め縣社の祭りや諸大會が連日平町に於いて開催され花誘ふ平町の人出は非常なものであらうと市内各商店では腕にヨリを掛けて準備に怠りない

(十五日)石城町村長支會總會(十六日)縣社子鎌倉神社祭例(十八日)縣下牛乳大會、郡下稅務主任會議(十九日)平署管内消防檢閱(廿二日)縣下聯合青年團總會(廿三日)縣下

宅に開き投票の形式に依つて區内の意嚮を徴した結果

#### 最高點は鈴木光吉

修養會は本日午後三時より平商に於て委員會を開き觀櫻會開催の件に就いて種々打合せた

# 滿洲行の

## 武装移民

### 平分會で募集

平町在郷軍人分會では在郷軍人の滿洲武装移民志願者の受付を本日より開始したが本年は二師團管内三十名と云ふ少數なので選抜は嚴重を極める模様である希望者は履歷書戸籍謄本軍裝品數種を來る廿日迄に分會長

宛に提出され度いと因に昨年郡下から採用されたのは一名であると

#### 平署衛生事項

平署管内二町廿二ヶ村衛生事務研究會は來る十五日午前九時より同署會議室にて

# 怪極る物語り

## 大人が聞いても興味は盡きない

### 明日川崎本社長放送

川崎本社長の仙臺放送局に於ける童話放送は明十三日午後六時と決定の旨既記の如くであるが、演題は「海底の壺」として世界的童話として有名なアラビヤンナイト中の怪奇極る物語りであり大人が聞いても話中の寓意は興味津津として盡きないものであり此の好材料を川崎氏が如何に演出するかは全國童話界の問題とされて居る由

明日の天才 十三日 今晩も明日も北東の風晴曇半す

#### 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話「新しい遊戯四ツ」美川徳之助  
後六、二五 ことばの講座  
(一)岡倉由三郎

ス 氣象通報 番組豫告  
明日の部  
前六、三〇 基礎獨逸語講座(二)橋本忠夫  
前九、一〇 料理献立「白菜の印籠煮」小林忠雄  
前一〇、三〇 家庭講座 村山是心  
後〇、〇五 金剛琴合奏  
後二、〇〇 家庭大學講座 哲學(終)東大教師大島正徳

後七、三〇 清元「四季三葉草」日比谷公會堂より  
中繼 清元梅吉社中  
後八、三〇 少女歌劇「火吹竹參内」寶塚少女歌劇  
花組生徒  
後九、三〇 時報 ニュー

#### 開會される

穀物検査研究 平穀物検査支所では來る廿二日午前十時より同所内に於いて産米鑑定會並に事務研究會を開くと

#### 子育地藏移轉

郡赤井村赤井地内子育地藏尊境内は最近匠救事業の爲め採土されたので部落民は境内後方に土地を買求め移轉すべく運動中であると

# 月見町の放火犯人

## 本日真相を自白

### 保險金詐取の目的

平町堤ノ内肉販賣業竹島清一郎(四)方へ十一日午前二時頃炭俵にて放火した者あり大事に至らず消止たが平署では被疑者として隣家居住農大和五郎(六)を本署に引致して嚴重取調の結果今日十二日犯人なる事を自白したが同人は數年前迄同所に相當の牛馬商を營んで居たが失敗した爲め本年二月日本火災保險會社に家屋を二千二百圓にて契約し前記の如き保險金詐取の放火を計たものであると

# 刑務所の圍塹改造

## 豫算が四千圓

### 本日から工事

平刑務所にては本日から圍の板塹をコンクリートに

改造すべき基礎工事に着手したが豫算は二百餘圓約四千圓にて六月頃竣工の見込みである因に目下の出勤人員は宮城刑務所より派遣された囚人二十五名である

國民文學寄贈 平第一小學校に勤務中昨年病死  
△店主 二十才迄 尋卒  
△女中 尋卒 給料面談  
△店主 二十六才 高卒 給料面談(平町某)

平職業紹介所報告  
△海産物雜夫 三十才迄 尋卒 月五六圓(四倉町某)  
△店主 二十才迄 尋卒 仕着小遣(湯本町某)  
△女中 四十才迄 尋卒 月七圓(平町某食堂)  
△雜夫 二十五才位 月十圓外面談(小名濱町某)  
△雜婦 四十三才 尋一修 給料面談(平町某)  
△鐵工見習 十六才 高卒 給料面談(内郷村某)  
△雜夫 二十四才 委細面談(平町某)  
△女中 尋卒 給料面談(平町某)

後六、〇〇 子供の時間  
お話「海底の壺」川崎小島  
後七、三〇 學術講演「マイクは診察する(腹の音)」名古屋醫科大學產婦人科學教室發表  
後八、〇〇 獨唱 新交響樂團練習所より中繼 獨唱太田黒養二 日本放送交響樂團  
後八、二五 觀世流謠曲「杜若」放下僧「遠藤善作」  
後八、五〇 放送映畫劇「十九の春」伏見信子外

# 豪傑剣道

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演  
近藤 紫雲畫

第三百十三號

佐々木見山

大六見山を怨む

菊地大六は想ふ女が家老の吉田織部の妾になつたと聞いて力を落した故障を申込むことは出来ない。それは身分が違ひます。今日も織部の許に參つて誕生の祝として酒を馳走になつたが心にわだかまりがあつてはいゝ心持に酔はない、スルトこの座に居つた佐々木見山が

佐「菊地先生は四天流剣法を御家中の者に御指南なされる由、四天流と申す剣道はやはり宮本の二刀流より出たものでござるか」と尋ねた

大「左様二刀流は細川家に傳はりましたがその流儀に尙一層工夫を加へ四天流と名付け、やはり二刀を遣ひます」

と申すと織部が織「コレ菊地、貴様は二刀を遣ふゆゑその事は存じ居らう、一刀すら自由に遣へぬものが二刀持つて敵に對するとは不法のやうにも思はれるが、二刀を遣ふ上は



かくいたすが利である云ふ處をみとめしゆへであらう」

大「左様にございます、多人数集合いたし居ります處で腰の刀を引抜くは抜刀でございます、兩刀を遣ふことが自由に出来れば一刀を遣ふはいとやす

ことは等に依つて宮本先生が二刀を用ゐる事を工夫いたしたものでございます」と申すと佐々木見山が

織「さうだ、これは佐々木が申すこと道理至極、宮本はさういふ考へより二刀を遣ふ事を練磨いたしたに相違ない、宮本は名人であるが、菊地は兩刀を遣ひながらかゝる事を存せぬか」

と云つたが些ときまじりか悪い、これから槍術又た柔術の話にうつたが、佐々木はよく武藝の事を知つてゐる、菊地は折々赤面する事があります、ところで夜に入りましてから此家を辭して菊地は住居に戻つたが

大「いま〜しいナ、想ふ女は御家老に取られてしまひ、又武藝上の事に就て佐々木のためにへこまされた人も落目になると悪いことばかり出来る、それにして

松「イヤ御家老の許に妹が居るとは聞きましたが側妾になつたとは存じません、それは以外、しかし先生妹を伴れて參ることはなかりますまい、どうか此事はおあきらめ下さい」

大「さりとて残念千萬、承るにおそでどのを助けて吉田の許へ持込んだは佐々木見山との事、彼奴は當家の者ではない、久留米在の豪士である、豪士は百姓同様

身分を忘れて俺に恥辱を與へるとは不埒至極、就てはおそでと婚約ある渡邊金彌は何と申して居る、おそでが吉田どのの妾になつたと聞いて何と申し居る定めし立腹いたし居るであらう」

御用命は印刷物の總て

常磐毎日印刷株式會社

電話三六〇番

平町字四丁目 男 鈴木長三郎

好間村 忽滑 全 郁子

銘酒生長

今般三丁目通り

芹澤タクシーの隣へ

電話六六二三番

磐崎屋支店

小野信一郎

吉田眼科病院

平町星町、電話六八八番

櫻花の季節になりました

お花見には是非……

夜宴の打詰

時節柄價格低廉

奉仕的勉強

平町一丁目

不夜城

電話一四一番

謹啓母ヨネ儀病氣の處療養不相叶本

日午前六時死去致し候間此段謹告候

也

追而葬送の儀は來る四月十三日午後二時自宅

出棺平町九品寺に於て佛式を以て埋葬相營み

申候

昭和八年四月十日